令和５年度　「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究　研究報告書

令和６年４月30日現在

研究課題名	ロシア語の品詞体系における数詞とその分類基準	
申請者	氏名	所属機関・職
	鈴木　理奈	札幌医科大学・北海学園大学　非常勤講師

研究成果の概要

ロシア語の数詞は，品詞体系において独立した品詞の位置づけがされており，形態的には名詞，形容詞，副詞と似通った特徴を示すなど複雑な性質を持つ。ロシア語の数詞には，個数詞，順序数詞，集合数詞などがあり，ここでは個数詞を用いた数量表現の考察を行っている。

ロシア語の数量表現では，数詞と数量単位または数量を示す対象物となる名詞を構成要素として数量詞が形成されるが，各々の語の羅列だけによるのではなく，数詞に後置する数量単位や名詞の語は格変化をし，数詞によっては性・数の形態を持つものもあるため，その場合はさらに性・数にも従う形となる。また，ロシア語の数量詞は，数詞が主格で先に置かれ，数量単位や対象物となる名詞は斜格で数詞に後置し，文法的な形を見ても数詞が主となる表現がとられている。

一方で，ロシア語と日本語における数詞の性質の違いに注目すると，日本語の数詞は品詞体系的に名詞に分類されており，独立した品詞の扱いになっていない。日本語の数詞は個数詞のみで順序数詞や集合数詞はなく，順序を示す際には個数詞の後に「番目」の助数詞を伴う形をとるなど，ロシア語と日本語では異なりが見られる。日本語における数量詞には，数詞と数量単位または数量を示す対象物となる名詞のほか，助詞や様々な助数詞が加わることもある。日本語には格変化がないため，各々の語形は変わらず，数詞と数量単位の結合による数量詞は語順通りの列記となるが，助数詞を伴う数詞と名詞の結合による数量詞は，数詞のほか名詞を先に置く語順の形も可能であり，また，数詞が先に置かれる語順の場合は助詞「の」を構成要素に伴う。ロシア語と日本語における数量詞の形態は，それぞれの言語的性質により要素や語順などに違いが存在することが確認できる。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書　等）※謝辞の有無について明記願います。

「ロシア語と日本語における数詞の比較」（雑誌「水源地」第６号，2024年４月16日発行）
謝辞なし

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

該当なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。